

平成21年度 第3回公民館運営審議会 会議概要

- 1 審議会名 公民館運営審議会
- 2 日 時 平成22年2月26日 午後2時00分から午後4時30分まで
- 3 会 場 明科公民館講堂
- 4 出席者 神谷委員、内田委員、下里委員、大倉委員、平倉委員、吉田委員、須山委員、降旗委員、曾根原委員、勝野委員、宮島委員、遠藤委員
- 5 市側出席者 丸山教育長、赤羽社会教育課長、加藤中央公民館長、丸山豊科公民館長、曾根原三郷公民館長、内田堀金公民館長、浅見明科公民館長、宮澤中央公民館主事、山田豊科公民館主事、平川穂高公民館主事、高嶋三郷公民館主事、猿田堀金公民館主事、竹田明科公民館主事、青柳中央公民館主事
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 平成22年月日

協 議 事 項 等

1 開 会

2 あいさつ

神谷公民館運営審議会会長
教育長

3 協議事項

- 1) 平成21年度事業報告について
- 2) 平成22年度事業計画について
- 3) その他

4 閉会

1) 平成21年度事業報告について説明

(委員)

多くの事業をやっていたら大変感謝している。しかし、公民館の使命は同じ地域に住む人間の結びつきを強める。また、故郷を離れた時に、この地に生まれ・育ったことを感じられるような事業展開のような気がする。抽象的で申し訳ないが、そのような事業実施に力を入れていただきたい。

(委員)

堀金公民館の報告の中で、年代別実施した事業で、20代、40～50代の参加が多かったと聞いて、興味を持った。昼間の講座だけか。夜も実施したのか。

(堀金館長)

20代対象の事業は、休日に。40代対象の事業も勤めがあるので、土日にやらせていただいた。20代は地元の食材を使ってちゃんとした料理をつくるということを狙ってやった。15名のところ40名くらい申込があり、2回に分けて実施した。この時、20～30代で募集したが40～50代の奥さんも教えてくれと申し込んできた。40代～50代の働き盛りを対象に、夫婦でお父さんはうどんを作りましょう、お母さんはマッサージを覚えましょうと講座を実施したところ、これも定員いっぱいになったということで、このことで我々が学んだことは、公民館活動は色々講座とかやるわけだが、年代によって求めているものは大きく違うということであった。

(委員)

うまく組んで男性も講座に参加できたことがわかったが、こういった工夫がないとやはり参加は女性のほうが多いか。

(堀金館長)

基本的に講座の受講者は女性が圧倒的に多い。男性が出てこれるような雰囲気を作ることにより、男性も出て来れる。

(委員)

先ほど委員から公民館とはどのような話があった。長く公民館に携わっているが、一番大事だなと思ったことは、運動会のことである。運動会の事業報告を見ると、各地域多少空気が違うような気がするが、運動会と公民館ということについて、何か参考になることがあったら館長からお願いしたい。

(穂高館長)

以前、公民館が全て段取りをしており、穂高の場合地区対抗という色が非常に強かった。全員参加にはどうしたらいいかということで、今までは公民館が全部やっていたが一昨年実行委員会を立ち上げた。昨年は体育協会が自主的に準備に取り組んでくれて、住民にも参加を呼びかけてくれた。また、地区内の複数の公民館で参加したいとの意向も聞かれ、サポート委員会でも諮った結果、来年はそういった形でもいいのではないかと結果になった。これからは、全種目出れなくてもいい、一種目での参加もかまわないというような声かけもしていこうと考えている。住民が自分たちで企画して運営しているという意識を持つことが大切だと思う。

(豊科館長)

豊科地域25館が全て参加できるのは運動会かなと思う。豊科公民館もなるべく地区公民館の主体性を重視して支援していくという形をとっている。豊科地域では2年前、大半が運動会はやめろというところからスタートを切った。このときは公民館職員と、体育指導委員が主体性をもってやっていた。体育協会は一步引いているという状況であったが、話し合いを重ね3年くらいで主体を体育協会とということにもっていった。また、公民館長、体育部長にも賛同いただき、全て総意で進めることができた。地区公民館対抗であるが、スポーツ少年団やサークル、企業等オープン参加の種目も増やしている。そういった意味では若い人から高齢者まで参加してもらえていると思っている。

(三郷館長)

三郷公民館では昨年からは運営委員会を設けて検討していただいている。2年前は賛否両論あった。そういった中でオープン参加の種目を増やす、また従来午後までおこなっていた運動会を午前中だけで実施する等大胆に変えた。その結果、対抗種目がもっと欲しい、もっと幅広い年代が参加できる種目が欲しい、さらにもっと時間をかけてゆっくりやりたい等の意見が出てきた。一昨年は750～800名の参加であったが、昨年は1,500名の参加があった。体協、体指の協力をいただく中で、地区の役員にも実行委員に入ってもらい、市民協働という形の中で運動会を実施することができた。三郷地域はりんご栽培農家が多く、この時期はとて運動会はできない等の声も聞かれる。また、少子高齢化が進み、地区公民館の役員のなり手もないような公民館もある。これら含めて、時期の問題、対抗種目・オープン種目の問題等を考えていかなければならないと思っている。

(堀金館長)

堀金は合併する前、村民運動会を区長会でやっていた。区と行政で実施していたが、合併の際区長会からもうやらないと言われた経過がある。しかし、住民が一堂に会する機会が必要とのことで、公民館が引き受けたといういきさつがある。各地区の公民館長からは反対もあったが、話し合いを重ね、体育協会、体育協会に参加している団体で実行委員を組織して実施している。今まで区長会でやっていた競技は区対抗だったが、公民館でやるからには身体を動かして地域の人と触れ合うことを目的に、当日会場に来れば誰でもできる種目を取り入れた。地区対抗は3種目あるが、反省ではもっと地区対抗を増やしてもらいたい、もっと種目を増やしてもらいたい等の前向きな意見も出てきた。選手を集めるのが大変だというのは役員の側のことであり、実際住民は集まって身体を動かしたいという希望を持っていると思う。

(明科館長)

22地区が一丸となって参加する大きな大会となっている。順位もつけるので盛り上がりを見せている。運動会終了後には各地区ごとに慰労会もおこなわれ、地域の親睦も深まっていると思われる。運営の基盤は、体協、スポーツ少年団、社会体育関係者が中心となる実行委員会で行われている。何年も手がけている役員もおり、非常にスムーズに行われている。当日は子どもの参加が非常に多かった。子どもの参加があるということは、各地区ごとに大人の参加もそれなりにあり、世代間の交流もできていたと思う。しかし、地域によっては選手選出が困難な地域もでてきているので、種目の見直し等も必要になってきていると思う。一昨年から昼食をとらずに、1時ごろ終わらすというように時間を短縮して行っているが、このことについて好評を得ている。明科においては運動会が地域の活性化、交流の場になっていると思う。

(委員)

運動会運営に関する悩み等は他の講座等にもつながるものと思い聞かせていただいた。

(委員)

報告を見ると、運動会、文化祭、成人学級等出されているが、予算面でも活動面でも共通化したものを三つくらい持ってやっていただけたらと思う。

(委員)

前回も社協との兼ね合いのことを言ったが、子どもと高齢者が一緒にできるような行事をやっているか。社協主体で「わんぱく広場」というのをやっているが、子どもも親も年配の方も出席している。そういう機会があったらいいと思う。

(館長・主事視察研修報告、公民館事業についてのアンケート取りまとめについて)

2) 平成22年度事業計画について説明

(委員)

合併してから公民館の職員が減ってきている。私もサポート委員をやっているが、事業の度に準備で出て行って、これだけの事業ができるという状況である。公民館事業は大切である、期待しているというが、予算、職員が減っている中で果たして充実した活動ができるか。

(教育長)

最もな話だと思う。いい活動をしてもらうという中で、予算、人員のことは要求していくがなかなか思うようにいかないのが現状であるので、声は続けて出していかなければならないと思う。

(社会教育課長)

今、平倉委員から職員が毎年減っている中で、事業ができないのではないかという意見をいただいているが、合併後地域の文化と歴史を生かすということで、中央公民館と各地域に分館を設けさせていただいている。中央公民館、分館をどういった形にすればいいかということを探ってきていることも事実である。伝統と歴史が重くのしかかってきており、現在も分館を中心に活動をしていただいている。他方面から社会教育課に職員を引き上げて中央公民館を形作り、地域の公民館では地域の課題に対応していくようにしてはどうかとの意見も出ている。今いる職員で次年度の計画に取り組んでもらうしかないという気がしている。これからは人を増やすということは、無理な部分があるのでご理解いただきたい。

(委員)

アンケートの中にもあるが、中央公民館の館長を地域の公民館長と兼ねてではなくて、館長は行政の職員が務めて、アンケートにもある安曇野市としての公民館のビジョンをつくってもらいたい。来年度の今頃はいい話になるようなことを期待したい。

(委員)

やはり分館を見ながら中央公民館の館長はハードだと思う。第2期目を迎えた中で、館長を公募するという話があり、その中で中央公民館長をつくるかという話もちらっと聞こえたような気もするが、実際は互選で中央公民館長が選ばれたということになっている。予算の問題もあろうが、今年は入れ替わる年でもあるので参考にさせていただきたい。

(委員)

三郷公民館での「セカンドライフいきいき学級」が希望者少数のため中止となっているのに、また計画に上がっているが、無駄なような気がする。希望のないものを計画にあげて、次の人たちに判断させるのではなく、次の人たちがもう一回別のものを立ち上げることができなかったか。それと明科のところで、参加人数が少ない事業があるが、最低人数というのは設けないのか。また、色々事業が上がっているが、できれば分煙でなく禁煙で実施してもらいたい。

(委員)

穂高と堀金の事業に「道祖神めぐり」というのがある。二つの分館が一回くらい合同でできれば益々充実したものになると思う。また、三郷の「セカンドライフ生き生き学級」、「堀金のふるさと常念の里熟年講座」も年代的には一緒なので、共通できるところは一緒にできるともっといいものになると思う。

アンケートの中で市として特色ある事業をというのがあるが、道祖神というのは安曇野は非常に多いのだから、継続して道祖神に関する事業をやって欲しいと思う。また、昨年知人に誘われて、安曇野市の5地域の桜の名所めぐりに参加したが、知らない場所もあった。桜をとっても、自然や四季を感じることができる。いくつかの分館で共同してこういった事業ができればと思う。

(明科館長)

明科の参加者が少ないという話があった。先ほどの視察の報告にもあったが、豊川市も最初の3年間は地域の人が全く取り合わなかったが、時間をかけ9年たって今の形になったという。また、公民館の実践集を読むと、最初は参加者が少なくてもやり続けていることによって、その事業が次第に地域で認知され、大勢の住民が楽しめるものになったという例もある。参加者数を軽んじるものではないが、そういった部分もわかっていたいただきたい。

(委員)

堀金は一年間は民謡教室ということで公民館が関わった。その後独立したサークル活動として公民館が関わったという経過がある。公民館の予算を考えて計画する場合、人数の少ないものは引き続きの事業でなくて、独立してもらってサークルとして活動してもらおうのも一つの手だと思う。

(明科事務局)

人数が少ないということであるが、24～25年前からサークル活動を初めて、その人たちがいまだにそのサークル活動をしている。高齢化が進み、文化祭等見ても活動が縮小しているケースがある。公民館として支援できるものは支援しようということで、なかなか新しい人が入ってこないサークルについて、公民館で支援をさせていただいた。参加者が基本的にサークルの方に移っていくことになる。公民館の役割としてある程度になった講座はサークル活動に

移しているが、基本的にその活動の一部と考えていただきたい。

3) その他

事務局より

- ① 公民館運営審議会委員任期切れに伴う公募について
- ② 地区公民館活動補助金要綱改正について
- ③ 公民館長公募実施について
- ④ 生涯学習推進本部設置について

以上報告

(委員)

現公民館長もとりあえず任期が終わるが2年間やってきて一言ずつ感想をお聞かせいただきたい。

(徳高館長)

お受けする前に区長や公民館の役員をやっていたので、大変だなとは思っていた。いっぺんに色々やるのは容易で
ないと思ったので、少しずつ手をつけていった。

(豊科館長)

生まれは豊科だが、全国をまわっていたのでブランクがあった。地域を知る、人を知るということを目的に事業を
行った。色々なところで活動している人や、地域興しをしている人を知ることができた。公民館活動はつながりを作
らないと難しいということがわかった。

(三郷館長)

来てもらってこそ、続けてもらってこそ公民館活動ということであるが、地域の方の協力なしではできないという
ことを痛切に感じた。地域に住む人が自分たちの公民館活動という意識にならないと、行政が全てお膳立てするよ
うな活動では続いていかないと思った。

(堀金館長)

公民館長をやって宝となったのは、地域の人たちを非常に知ることができた。色々なところで公民館は停滞してい
るとか、悪いことが聞かれるが公民館というものを地域の人に理解していただいて、公民館が大事だということをも
うやれば住民にわかってもらえるかということに苦労した二年間であった。

(教育長)

館長、審議委員ともに任期を迎えるが2年間のご尽力に感謝する。

閉 会